

東院庭園「庭の宴」2015

東院庭園では2013年以来、月が美しい秋の夜に、奈良時代の宴の様子を再現する催し物を実施してきました。今年も10月3日に「庭の宴」と題し、宝亀8年(777)の出来事を再現した宴を催しました。

『続日本紀』によると、この年、楊梅宮の南池に、1本の茎に花が2輪咲くという珍しい蓮の花が咲いたそうです。この慶事を祝う宴席を想定して、宴を組みました。

まず、今年の正倉院展の出陳品の中から、彫石尺八と紫檀木画槽琵琶を取り上げ、雅楽演奏家の太田豊さんにそれらを模した楽器を演奏していただきました。その後、恒例の山部親王、後の桓武天皇やその生母、高野新笠が登場し、最後に東院庭園で咲いた双頭の蓮を命婦が献上するという流れで、天平時代の衣装と歌舞音曲を楽しんでいただきました。

奈良文化財研究所では、今後も東院庭園を場として、可能な限り当時の様子を忠実に復元する催しを続けていきたいと考えており、復原整備だけでなく、その活用にも取り組んでいきたいと考えています。皆様のご協力を心よりお願い申し上げます。

(企画調整部長 杉山 洋)



彫石尺八の演奏



天平衣装

韓日発掘交流に参加して

国立慶州文化財研究所と奈良文化財研究所との研究交流の一環として、2015年8月3日から10月2日まで奈良に滞在し、藤原宮跡と平城宮跡の発掘調査に参加しました。

まず、藤原宮跡(藤原宮大極殿院)の調査は大極殿基壇南側の大極殿院内庭を対象に実施したもので、調査過程で礎敷広場、大極殿基壇南側の階段痕跡、造営期の運河等が確認されました。8月の奈良はとても暑かったですが、藤原宮跡のような重要な遺跡の発掘現場に参加することができ、考古学を学ぶ者として非常に嬉しかったです。

平城宮跡(第一次大極殿院)の発掘調査は、大極殿院広場の西辺地域の井戸の有無の確認とその時期決定を目的として実施しました。今回の調査では、遺構の性格と時期の決定について大変悩まされました。その過程で瓦、木簡等、複数分野の研究者と一緒に遺跡の様相について討論する機会をもち、非常に興味深い時間となりました。

奈文研で2ヶ所の発掘調査に参加し、調査と研究そして整備・活用までのサイクルを目の当たりにすることができました。それだけでなく学術的成果をどのように活用するかについて、常に頭を悩ませていることを様々な場で感じられたことも忘れ難い経験となりました。

韓日発掘交流は今年で10年になります。今後も持続的な交流を通じて、多くの研究者が両国の調査研究の方向、および文化財行政を直接見て感じる機会が継続することを希望いたします。

(国立慶州文化財研究所 張恩恵、翻訳 諫早 直人)



発掘作業への参加風景